

## 場所・面積

北海道札幌市手稲区手稲金山外、面積：1,229.92 ha

## 管理目的

水源涵養や土壌保全などの環境保全機能の発揮や地域社会や住民に憩いの場を提供する。

## サイト概要

- 北海道札幌市の西部に位置し、札幌市街地に接する一団地の社有林。200万人都市である札幌市内に存在するという恵まれた立地を活かし、地域住民の活用に供するだけでなく豊かな天然生林資源の有効活用のために間伐を中心とした非皆伐の森林整備を実施。
- 主な植生は天然広葉樹林やカラマツ林であり、山頂周辺は針広混交林、沢沿いではカツラ、ヤチダモ、ケヤマハンノキ等が生育。天然生林率は74%。人工林は高齢級のカラマツが大半であるが、一部天然生林化が進んでいる。

## 土地利用の変遷

- 1935年に手稲鉦山の取得とともに買収し、1950年代後半頃からカラマツ造林が推進された。1970年代以降はキャンプ場用地など札幌市民への開放を中心とした利用に転換。
- 2017年には初めて植樹イベントを開催。翌年以降も継続して環境関連イベントを開催。
- 2020年度には造林以降停滞していた搬出間伐等の森林整備に本格的に着手している。

## サイト周辺の環境

- 北海道札幌市手稲区に位置し、南は手稲山山頂、北の山麓は市街地に接する。
- 札幌自動車道の手稲ICに近接するため、道内各地からのアクセスも良好である。
- 子会社で運営された砕石場跡地、鉦廃水処理施設等が存在する。

## アピールポイント

- 都市近郊林という立地を活かし近隣の小学生等を対象に体験学習等を定期的実施。
- 生態系の機能の発揮のために環境負荷の低い小規模な作業システムを採用し、収穫した木材については、広葉樹を中心に地域社会へ供給を目指し、地域社会への貢献を目指した取り組みも実施。
- タブレットやスマートフォンのアプリを活用したモニタリングのデジタル化を推進。



## 生物多様性の価値

## 価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

## 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

## 【場の概況】

人工林（カラマツ、トドマツ）、天然広葉樹林、針広混交林、水域と様々な環境を有し、沢地・水辺、林内、草地など多様な環境に生息生育する多くの動植物（希少な動植物含む）が確認されている。

## 【主な植生】

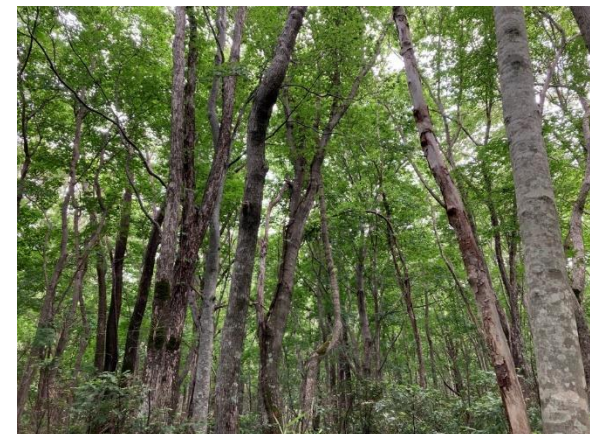
シナノキ、ミズナラ、エゾイタヤ等の天然広葉樹林やカラマツ林であり、山頂周辺はダケカンバ、エゾマツ、ミヤマハンノキ等の針広混交林、沢沿いではカツラ、ヤチダモ、ケヤマハンノキ等が生育。

## 【生態系サービスの概況】

都市近郊林であることから環境負荷の低い小規模な作業システムにより木材生産を実施（供給サービス）。また住宅地に隣接している区域もあることから、気候調整にも貢献していると考えられる（調整サービス）ほか、自然歩道やキャンプ場の敷地として札幌市に貸与することで多くの市民にとってレクリエーションや憩いの場としても活用されている（文化的サービス）。



写真番号：001 写真の撮影年月：2023年5月  
写真の説明：カラマツ人工林（高齢級林）



写真番号：002 写真の撮影年月：2022年7月  
写真の説明：天然広葉樹林

## 生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

価値（7）分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

## 【場の概況】

人工林（カラマツ、トドマツ）、天然広葉樹林、針広混交林、水域と様々な環境を有し、沢地・水辺、林内、草地など多様な環境に生息生育する多くの動植物（希少な動植物含む）が確認されている。【再掲】

## 【主な植生】

シナノキ、ミズナラ、エゾイタヤ等の天然広葉樹林やカラマツ林であり、山頂周辺はダケカンバ、エゾマツ、ミヤマハンノキ等の針広混交林、沢沿いではカツラ、ヤチダモ、ケヤマハンノキ等が生育。【再掲】

## 【確認された主な動植物】

- ①環境省レッドリストの植物などの希少種の生息を確認している。
- ②過去の動植物調査において以下の種が確認されている。
  - ・国内での北海道固有種：シマリス、エゾサンショウウオ、ヤマゲラ
  - ・ある環境を特徴づける種：キクガシラコウモリ(洞窟)、ニホンザリガニ(冷水・源流)、ムカシトンボ(冷水・源流)
- ③過去の動植物調査によりクマガエラの営巣・ねぐら可能性木や採餌木が確認されている。



写真番号：003 写真の撮影年月：2013年8月  
写真の説明：キクガシラコウモリ



写真番号：004 写真の撮影年月：2013年7月  
写真の説明：ムカシトンボ

## サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p><b>【管理計画の内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷の低い作業システム（馬搬、小型機械の活用、小規模作業道）を採用し、立木密度を適正に維持する間伐の実施、自然歩道やキャンプ場の遊歩道のメンテナンスの実施。</li> <li>・上記の実施により土壌攪乱や林床植物の踏圧被害が少なくなることで、土砂流出の防止や林床植物の更新不良の防止を図れ、この管理の結果として、希少種の生息環境が維持されている。</li> <li>・モニタリングは①日常モニタリング、②施業実施前後モニタリング、③林道（作業道）施工前後モニタリング、④定点植生モニタリングを実施し生態系や動植物の生育状況を確認し、必要に応じ生物多様性保全のための措置を実施している（詳細は右記の通り）。</li> </ul>	<p><b>【モニタリング対象】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①、②、③：林分状況、林道状況、動植物の生息状況、生物の生息状況、山林への立ち入り状況など</li> <li>④：木本および草本類</li> </ul> <p><b>【モニタリング場所】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①：巡視等の状況に応じ決定</li> <li>②、③：整備及び施工対象箇所</li> <li>④：任意に設置した定点プロット</li> </ul> <p><b>【モニタリング手法】</b></p> <p>職員により定型のフォーマットに記録、記録媒体はタブレットもしくはモニタリング用紙を使用し管理。</p> <p><b>【実施時期及び頻度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①：山林を訪れる都度実施、不定期</li> <li>②、③：施業および施工前後に1回ずつ実施</li> <li>④：5年に1回、7～8月ごろに実施</li> </ul> <p><b>【実施体制】</b></p> <p>職員により実施。</p>